

ペスタロッチャー教育賞 受賞者紹介

NHK名古屋放送局 「中学生日記」制作スタッフ

NHKテレビ番組「中学生日記」は、昭和47年（1972年）4月に始まり、現在、NHK総合チャンネルで毎日曜日13時から13時30分まで放映されている。その前身番組である「中学生次郎」などを加えると、本年度で35年に及ぶ長寿番組であり、一貫してNHK名古屋放送局が制作にあたっている。

番組の舞台となっているのは、架空の「名北中学校」2年生と3年生の各1クラスであるが、ほとんど素人である実際の出演中学生たちの生々しい体験、考え、悩みを土台にして作られるドキュメンタリー・ドラマと言える。

映像文化としての優秀性に対し、平成7年度児童福祉文化賞、第2回教育番組国際コンクール日本賞が与えられているが、この番組の制作態度と長期にわたる放映は、以下の諸点において現代日本のきわめて意義ある一つの教育活動ないし教育運動として評価される。

第一は、取り上げられるテーマの社会的・心理的な今日性である。例えば、当初から取り上げられた受験、進学、異性、友情、親子、家族、教師、校則など、さらに最近の非行、エイズ、いじめ、不登校などは、今日の中学校や家庭が抱える焦眉の教育テーマである。しかも、問題の多義性を考慮してできるだけその提起にとどめ、中学生や視聴者自身が問題を考えるヒント、励ましとなるよう、性急な結論、解決を求めないことも評価される。

第二は、制作過程の教育性である。すなわち、大勢の地元の中学生たちが「名北中学生」とし

て出演することによって、それぞれが新たな個性を自覚し、人間関係をつくり、成長を遂げている。ちなみに「名北中学校」在籍者は常時250人、通算4500人に及ぶ。いわば視聴者参加のテレビ番組で、地域の厚い信頼と支持が寄せられている。

第三は、テレビメディアのもつ広範で深い影響力である。個々の家庭視聴の効果の大きさは言うまでもないが（平成8年度上期視聴率7.7%）、さらにこの番組を録画利用する学習グループは全国の中学校や婦人学級にきわめて多く、その成果も『放送教育』などに多数報告されている。また、『NHK中学生日記1～30』（ポプラ社、1993～95年）など、番組にちなむ出版物も見落とせない。

このような特色ある活動は、かつてペスタロッチャーがノイホーフやシュタンツで彼の周りに集まった子どもたちと共に暮らし共に学びつつ、真の教育の原理を模索したことと精神的に通底するものである。さらに、困難な状況に置かれた子どもたちを救済するため、社会改革を訴え続けたペスタロッチャーの姿勢が、番組の制作理念にも確かに認められる。

日本のテレビ界は消費社会文化の中で、ともすれば低俗に流れ、視聴率優先に走りがちである。その中で「中学生日記」35年の歩みは、現実の中学生たちの生きたエピソードのドラマ化を通して、混迷する学校や家庭の教育再生を訴える「社会改革の闘い」であったとすることができる。長年にわたり一貫して、困難な教育再生の課題に取り組み、その重要性を社会に訴え続けてきた番組制作スタッフの多大な功績に対し、第5回ペスタロッチャー教育賞を贈呈し、高く顕彰したい。